

今回は日本臨床鍼灸懇話会に訪問しました。 鍼灸学科23期夜間部 小島 賢久

1, 設立の経緯を教えてください。

現代医療の一翼を担い社会に認められる鍼灸師、経営の成り立つ鍼灸院であるためにはどうあればよいのか。

日本臨床鍼灸懇話会は今から43年前の昭和35年に、当時の鍼灸界で科学派と呼ばれた代田文誌先生をはじめ倉島宗二、米山博久、三木健次、清水千里の諸先生らが、内臓体壁反射学説を提唱された金沢大学医学部病理学教授石川太刀雄先生のもとに集まり、日本針灸皮電研究会として発足したのを初めとします。それ以来、鍼灸師の資質の向上と、鍼灸医療の進歩普及に貢献することを目的に掲げて活動を続け、鍼灸界の先導役をつとめてきました。

本会は会の名前が示しているように、「臨床」を重視し、鍼灸師は目の前の患者さんに対してどのような態度で接し、診察・治療の技術や能力を身につければよいのかなど、常に町の臨床家の集まりというスタンスを持って考え、実践しています。また「懇話会」という名が示すように、本会は学生であるか否かによらず、また治療経験の深い浅いの隔てなく、気軽にとことん話し合いのできる会であることをモットーにして進めています。学会という堅苦しい発表の場と言うより、お互いの交流の時間を多くして、少しでも互いの臨床の疑問が解決でき、知識や技術の伝授や意見交換が容易になればと考えています。

会員は青森から沖縄まで約150名で、特に本校の教員や本校を卒業された先生方も多く、大阪に事務局を置いて、会誌の刊行、学術集会の開催、関連団体との交流など全国的に活動しています。

2, 会員に本校教員や卒業生が多いですね。

会員に本校の教員や卒業生が多いのは、実は、本校の前身である大阪鍼灸専門学校(創立昭和48年)の創設に携わった先生方の大半が懇話会の創設メンバーでもあったことと関係しています。本校紹介のホームページにもあるように「本校は当時の日本を代表する鍼灸師達によって、臨床に優れた医療人を育成するという情熱のもとに生まれた学校」とありますが、本校が臨床に強い学校として全国的な評価を受けているのは、実はこれら懇話会を立ち上げられたメンバーの理念の具体化に他ならなかったと思います。

3, 現在の懇話会の活動について教えてください。

毎月1度(年10回・第1または第2日曜日)の定例研修会(13:30~16:00)と、同時開催の勉強会(12:00~13:20)を本校の教室をお借りして行っています。懇話会では、すべての参加者が共通認識を得られやすいよう現代医学を採用しています。現代医学を踏まえ、参加者の共通理解が得られたなら、後はどのような東洋医学理論を用いて診察、治療に当たっても制限はありません。

<定例研修会>

症例検討とその実演が主で、1報告について1時間から1時間30分とじっくり時間をかけてみんなで討論しています。今年に入ってから演題は、

- 1/18 「鍼灸治療が無効であったガン性疼痛」 山村美樹
- 2/8 ①「肩こりとストレスの関係から得られた情報」 木下伸一
②「心理社会的ストレスにより増悪する顔のほてりと肩こり」 星野良和
- 3/7 ①「初めての肩関節治療」 高橋 愛
②「中医学講義一血の病証について」 于 思
- 4/11 ①「患者さんとのより良いコミュニケーションのために(調査)」 塩澤智万
②「のぼせが改善した一症例」 森 拓次
- 5/9 ①「患者さんとのより良いコミュニケーションのために(調査)」 奥本憲司
②「最近経験した逆子の2症例」 鈴木 信
- 6/6 ①「顎関節症の一症例」 辻丸泰永
②「中医学講義」 于 思
- 7/4 ①「肩関節の治療で指の痛み、頻尿が改善した一症例」 森 拓次
②「小児鍼 概論と実技」 清水尚道

<勉強会(懇話会ユース)>

若手の会員が中心となって開業鍼灸師にとって最低限必要と考えられる理論や診察テクニックを、主に学生さんや卒業後間もない臨床家の先生方を対象に行っています。

今年に入ってから勉強した内容は

- 1/18 「鍼灸医学のための診断学」 木下 滋
- 2/8 「膝痛の診方」 辻丸泰永
- 3/7 「血圧の診かた(高血圧を中心に)」 塩澤智万
- 4/11 「上肢の診方」 中島 茂
- 5/9 「診療録(カルテ)の書き方について」 佐藤正人
- 6/6 「顎関節の診方」 森 拓次
- 7/4 「肩関節の診方」 奥本憲司

これらの会への参加方法ですが、参加は会員以外でも可能です。片方のみの受講でも、両方とも受講した場合でも参加費は同じで、学生さんの参加費は1回1000円、一般は2000円となっています。会員になられた場合は、年間一律6000円で受けられます。参加をご希望であれば詳しくは会事務局(06-6386-4566)へお尋ね下さい。またホームページをご参照下さい。

4, 毎月1度の定例研修会以外に年に1度、全国集也会も開催されていますね。

今年の全国集會は東京にて下記のごとく開催いたします。今年の全国集會は、「どうすれば臨床技術が上手になるか」というヒント満載の企画です。鍼灸臨床の立場から、診察や治療の基本となる触診法についての実演と少人数による個人指導、また東西の熟練鍼灸師6名による公開実技などを行います。また、ここ数年来、プライマリーケアの一翼を担当するものとして、必要な技術、能力、態度は何かを名古屋大学医学部附属病院総合診療部教授の伴信太郎先生にご講演をお願いしております。ぜひご参加下さい。

第43回日本臨床鍼灸懇話会全国集會東京大会

◆テーマ:『手から手へ。懇話会が見せる臨床技術伝達(教育)法 一目指せ!! 実践鍼灸師』

◆会 期:平成16年11月13日(土)~14日(日)

◆会 場:文京学院大学島田依史子記念館「仁愛ホール」
(東京都文京区向丘1-19-1)

—東京大会概要—

<特別講演> 伴信太郎先生(名古屋大学医学部附属病院総合診療部教授)
「ジェネラリストとしてのプライマリ・ケア医」と題して、今回はプライマリ・ケアに関する今までの講演内容に加え、伴先生ご自身が鍼灸にどのように興味を持たれたのか、などお話し頂く予定です。

<教育講演> 米山榮先生(日本臨床鍼灸懇話会顧問内科医)

「鍼灸治療を安全に進めるための基本的手順について」と題して、医道の日本に投稿された「臨床鍼灸師の心得集」から特に重要とされる事柄の解説と実演をしていただきます。

<ワークショップ(1)> 木下伸一先生(日本臨床鍼灸懇話会副会長)

「ストレスによる肩凝りの鍼灸学」と題して、診察のための触診法、治療部位を選定するための触診法などを指導予定(指導を受ける方は希望者のみ)。

<ワークショップ(2)> ベテラン臨床家6名による鍼灸治療の実技供覧
様々な病状に対して複数の演者が各自得意な診察法、治療法を公開。

<一般口演>

「虚弱体質の鍼灸治療について」 東京女子医大附属東洋医学研究所/向田宏
「難治性不妊症に対する鍼灸治療の症例」 森ノ宮医療学園附属診療所/中島茂

